

金沢市持続可能な社会を形成するための連絡会ニュース

第16号 平成15年11月1日発行

最近、「企業の社会的責任」に関する様々な取り組みを新聞記事で目にします。「企業の社会的責任」、CSR(コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ)は、経済的な側面だけでなく、環境対策や法律遵守、人権擁護、労働環境、社会貢献、消費者保護といった社会的側面でもバランス良く責任を果たそうという経営理念です。



欧米の多国籍企業が途上国で児童就労や環境破壊などの問題を起こしたのがきっかけで1990年代後半から欧州で提唱され始め、現在欧州主導で2007年のISOシリーズ化に向け、取り組みが進められています。

アサヒビールは、すべての資材取引先の選定基準に社会的責任に関する項目を盛り込み、アンケートや直接訪問を実施し、調達先選びに役立てるそうです。また、日本政策投資銀行は、平成16年度から企業の社会的責任や環境配慮型経営を促すため、企業の環境への取り組みを200点満点で評価し、高得点の企業には投資資金や運転資金を通常よりも低利で融資するようです。

リコーやソニーなど大手8社と日本経団連は、経済産業省と協力して、「企業の社会的責任」の日本規格を来年6月までに取りまとめることにこのたび着手しました。

今後の環境経営のまさにキーワードとなりそうです。

廃棄物減量化の拠点、戸室リサイクルプラザを訪ねる

第22回連絡会は、7月1日、金沢市内の団体としては初めてとなる戸室リサイクルプラザの見学会を実施しました。

■1日350台が搬入 埋立場の概要



現在の埋立場は、約400m³で東京ドームの約3.2倍の容積である。

この7月から粗大ごみの一部有料戸別収集すること

になったため、昨年搬入されたごみが3,150tだったのに比べ、4月から6月の3ヶ月間だけで8,100tにも及んでいる。埋立場の底部は、当初、標高135mだったが、今では178mになっている。埋立場の管理費に毎年10億円もかかっている。

■新エネルギーの導入、リサイクル製品の活用 戸室リサイクルプラザは環境配慮型施設です

戸室リサイクルプラザは、プラザ棟、処理棟、ストックヤード棟の3つで構成されている。

プラザ棟は、環境学習に役立つ環境情報コーナー、粗大ごみとして回収されたもので再生可能な家具類の展示販売コーナー、エコライフ工房、研修室などで構成されている。



環境情報コーナー

施設の屋根には太陽光発電や太陽熱給湯システムが設置され、プラザ棟の電力の一部を賄い、風呂・給湯にも利用されている。雨水は、トイレの洗浄水や庭木の散水用に利用し、施設の屋内外

で廃材、廃ガラス、廃タイヤなども使われている。

■膨大な容器包装プラスチックの量



貯留ピットからクレーンで運ばれる容器包装プラスチック

処理棟では、収集された容器包装プラスチックごみが運搬車から貯留ピットに投入され、供給クレーンによって受け入れホップに投入されていた。そのごみを間近に見て、改めてその量の多さに驚きの声が上がっていた。

処理棟での処理能力は、91t/日で、不燃性粗大ごみが59t、可燃性粗大ごみが2t、布・繊維性粗大ごみが5t、容器包装プラスチックごみが25tとなっている。

環境保全活動推進マニュアル

検討会を発足しました

■環境保全活動推進マニュアルとは

当連絡会には、地球温暖化防止実行計画を策定したり、ISO14001 を認証取得するなど市内事業者の環境保全活動の範となるような取り組みを行っている事業者が多数参加しています。こうした取り組みのノウハウをまとめ、市内事業者の取り組み推進に役立てることを目的に、今年度「環境保全活動推進マニュアル」を作成します。

■第1回検討会を9月22日に開催

次の各事業者担当者に委員をお願いし、マニュアルづくりを進めています。

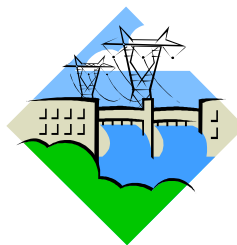
(株)金沢名鉄丸越百貨店、熊谷組(株)北陸支店、

(株)国土開発センター、トナミ運輸(株)金沢支店、

日本たばこ産業(株)金沢支店、ホクショー(株)

マニュアルは今年度末に完成予定です。

必要な情報提供にご協力をお願いします。



第23回連絡会

七尾大田火力

発電所見学会

10月6日開催

■金沢市内への電力供給が最も多い発電所

大田火力発電所は、1号機が平成7年3月から、2号機が平成10年7月から稼働しており、発電能力は120万kwである。燃料は石炭で、オーストラリア、インドネシアを中心に1週間から10日に一度輸入されている。最大で50日分が貯炭場に入れられている。

この発電所で発電された電力は北陸管内全てに供給している。金沢には、新富山



発電所からも供給されており、この発電所の稼働に影響があっても支障がないようになっている。

北陸3県では、石川県の需要が最も大きい。

蒸気温は国内最高の593℃となっている。蒸気温を高く上げることで、熱効率はアップする。海水で水を30℃程度まで冷やし、循環利用しているが、余熱の有効活用が今後の課題である。

■所内の見学



中央制御室では、職員7人が1号機、2号機の運転操作を行っている。所内にはパラボナアンテナが設置され、北陸電力の各

発電所の供給量の調整をマイクロ波で行っている。緊急時のトラブル制御、非常時の通信手段としても役立っている。

■質疑応答

Q1 最近、籾殻を炭化する技術が出てきているが、石炭の代わりに燃料とすることは可能か。

A1 カロリーのことを考えると単独で燃料とすることは難しい。石炭に何%か混ぜて使用することを検討している。

Q2 石炭灰のセメント利用の割合はどれだけか。

A2 98.5%を再利用している。フライアッシュが18万4千t、クリンカアッシュが1万5千tである。最近需要が増えている。

Q3 環境報告書を見ると、1998年と比べ1998年に大きく二酸化炭素排出量が上がっているのはなぜか。

A3 1999年に原子力発電所の稼働が落ちていることが影響している。



幹事会活動報告

地球温暖化防止実行計画策定企業の情報交換の場として幹事会を設置しています。

9月5日と16日には、示野町にある㈱サワヤ示野工場とリサイクル工房「リライト」を見学しました。



■廃蛍光灯管リサイクルへの着手

もともと照明器具取付など電気工事が主であったが、工事施工や保守メン

テナンスの過程で廃蛍光灯管を引き取る機会が年々増えてきた。地域にこれを処理できる業者が存在しなかったことや行政からの提案もあり、平成12年に破砕機を導入し、産業廃棄物処理の分野に進出した。当初は単純に破砕だけを行い、処理した物は長野県内の最終処理場へ委託されていた。

最終的には埋め立てられていた。平成14年には、水銀無害化処理のための設備を導入した。水銀無害化のガラスを工業試験場で溶かしてもらうことをお願いしたのがリサイクルを始めるきっかけとなった。

■全国で唯一のガラス製品へのリサイクル



蛍光灯をガラス製品にリサイクルするためには、蛍光管に付いているアルミの口金、ボンド、プラスチックソケットなどをきちんと手作

業ではずしていくことが必要である。一緒に破砕してしまうと、プラスチックが炭化することにより、カレットが黒くなってしまふ。蛍光灯のリサイクルをしている産廃処理業者は、全国で11社あるが、当社以外は路盤材、グラスウールとしてリサイクルしている。

排出事業者の方々をお願いしたい事だが、廃蛍光灯は屋外で保管されると、砂汚れなどが付き、製品ガラスに残ってしまう。屋内での保管をお願いしたい。

■ガラス工房&ギャラリー「スタジオ リライト」



工房ではガラス作家により、一つ一つ手作りのガラス製品製作が行われている。蛍光灯のリサイクルガラスの大

きな特徴の一つが、色づけすることが可能だということであり、板ガラスではできない。

現在、ガラス製品の量産体制づくりを進めている。こんなガラス製品の製作を考えてみてはどうかという提案があればぜひお願いしたい。



問い合わせ先 ㈱サワヤ

本社：駅西本町3丁目18番30号

TEL263-0654 FAX263-0655

イベント情報



◆米国・環境技術ビジネスマッチングセミナー

日時 11月17日(月)13:30～17:00

会場 県繊維会館2階第15研修室

内容 油/MTB汚染地下水浄化技術

BarCadによる地下水サンプリング技術
についてのプレゼンテーションと個別面談
※今回プレゼンテーションする企業は昨年、
名古屋において米国大使館の協力のもと、「米国・土壌、地下水サンプリングの
新技術セミナー」を開催した実績を持ち、
環境関連のコンサルタントや関連企業の
環境危機の日本への販売等を手がけて
いる企業です。

申し込み 県環境ビジネス研究会事務局

(ISICO プロジェクト推進部内)

TEL267-6291 FAX268-1322

◆県民環境講座「土曜環境フォーラム」

～企業の環境保全活動

(環境共生企業をめざして)～

日程および内容

第1回 11月15日 イオン(株)関東カンパニー

第2回 11月22日 キリンビール(株)北陸工場

第3回 11月29日 (株)ナナオ

第4回 12月20日 松下電器産業(株)

特別 1月17日 ドイツ視察報告

※各回とも14:00～16:00

会場 石川県広坂庁舎1号館および県民エコー
ーション

受講料 無料

申し込み (社)いしかわ環境パートナーシップ

県民会議

TEL232-3991 FAX232-3992

◆北陸環境共生会議シンポジウム

「水と緑に恵まれた北陸から

地球温暖化問題を考える」

日時 12月22日(月)13:30～16:30

会場 金沢電気ビル2階大ホール

内容 記念講演とパネルディスカッション

申し込み 石川県環境政策課

TEL225-1462 FAX225-1466

金沢市省エネルギー

ビジョン策定にあたって

京都議定書発効が目前に迫っている中で、地域
自らが主体となり、それぞれの地域特性に応じた
脱温暖化社会の構築が求められています。

そこで、金沢市では今年度、国の省エネルギー
政策に基づき、省エネルギーを推進し、環境への
負荷の少ない持続的な社会経済の形成を図ると
ともに、環境基本計画に掲げる省エネルギー施策に
ついて、その実現性・実効性をより一層向上させる
ことを目的に、地域特性を活かし、市民・事業者・
行政が一体となって取り組んでいくための行動指
針として「金沢市省エネルギービジョン」を策定しま
す。

このビジョンを策定するための基礎資料として、
「事業所でのエネルギー消費に関する意識調査」
を8月下旬から9月上旬にかけて当会員各社に、ま
た、「省エネルギー実態調査」を幹事会員各社に
協力いただきました。ありがとうございました。

今後このビジョン策定に向けてパブリックコメント
の募集や市民フォーラムの開催を予定しています。
ぜひ、貴重なご意見をお寄せください。



会員企業の皆様もこのコーナーに掲載したい情報
がありましたらどしどし事務局までご連絡ください。

金沢市持続可能な社会を形成するための連絡会
事務局(金沢市環境保全課内)

〒920-0024 金沢市西念3丁目4番25号

TEL076-234-5132 FAX076-220-2518

<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/kanho>